



2018 年度 卒業時アンケート 結果報告【短大】

目次

| | |
|-----------------|---|
| 1. 調査の概要 | 1 |
| 2. 本学に入学してよかったか | 1 |
| 3. 学修の満足度 | 2 |
| 4. 建学の精神の社会的実践 | 2 |
| 5. 在学中の講義機会について | 3 |
| 6. 身についた力 | 3 |
| 7. 進路決定に役立ったもの | 4 |
| 8. 進路満足度 | 4 |
| 9. 本学は、第一希望だったか | 5 |
| 10. まとめ | 5 |

1. 調査の概要

本報告は、郡山女子大学短期大学部における 2018 年度 3 月の卒業生を対象として、本学に対する印象や在学中の学修状況などを把握することを目的に実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、2018 年度の卒業認定者発表後に調査票を配布し、3 月末まで記入してもらい回収した。2018 年度 3 月の卒業生数 329 名であるが、そのうち 311 名から有効な回答を得た。

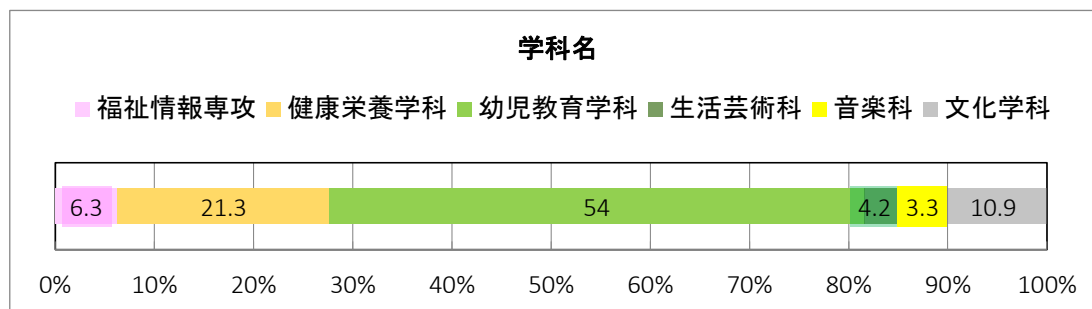


図 1. 回答者分布

2. 本学に入学してよかったか

調査では、「郡山女子大学短期大学部に入ってよかったと思いますか」として、「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」から選択してもらった。集計の結果、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると 8 割強であり、概ね学生が本学に入学してよかったと感じていることがわかる。卒業時アンケートは、昨年度からの実施のため毎年行われている学生生活アンケートでの年度間で比較しても回答の割合に大きな差はみられない。



学生生活アンケート時点より、卒業時アンケートでの「そう思う」と回答した卒業生が多いことから、卒業を迎え満足度が上昇している。

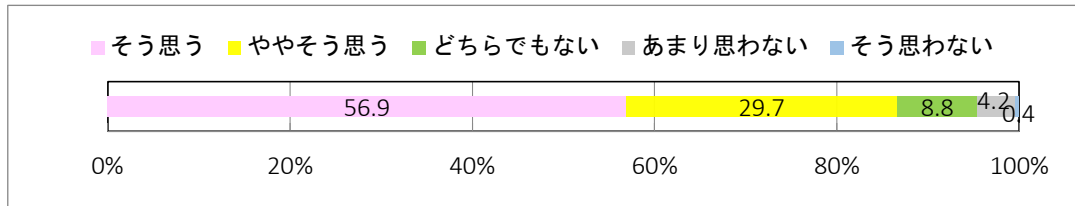


図2. 本学に入学してよかったか

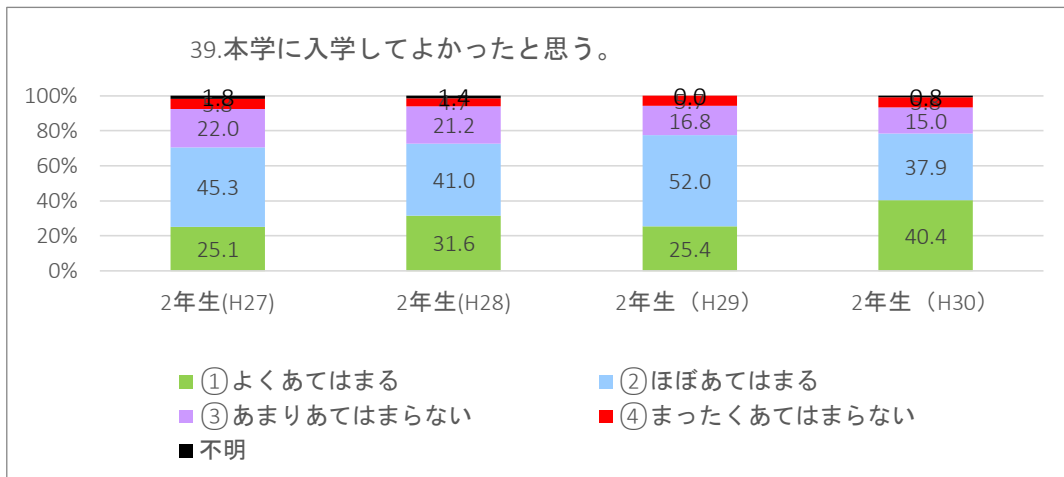


図3. 学生生活アンケートでの経年変化

3. 学修の満足度

学修の満足度については、「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階で回答してもらった。ここでは、「そう思う」「ややそう思う」合わせて約8割の学生が満足している。今後とも満足度の維持と更なる向上に心したい。

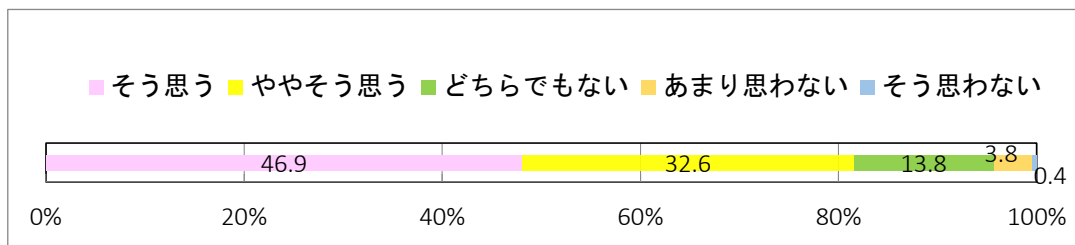


図4. 学修満足度

4. 建学の精神の社会的実践

「尊敬」、「責任」、「自由」という本学の建学の精神を、卒業後の社会生活において実践しようと思うかどうかをたずねた質問の集計結果を示す。「そう思う」「ややそう思う」を合わせると約8割が何らかの形で実践していこうと考えている。今後とも本学の教育を通して、建学の理念が学生たちに受け継がれていくための体感・実感できる機会を引き続き設けていく必要がある。

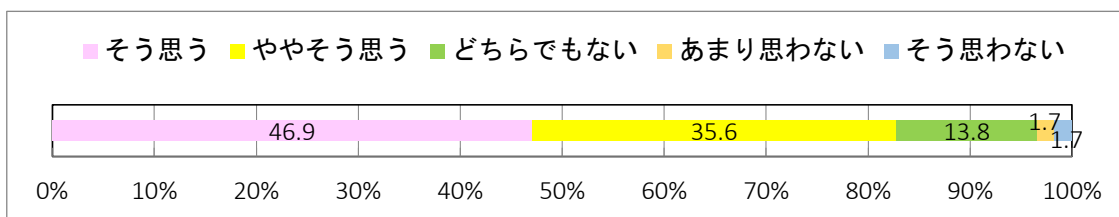


図 5. 建学の精神の社会的実践

5. 在学中の講義機会について

在学中の講義で、どのような機会に恵まれたかを 7 の項目を挙げて回答してもらった。小テストやレポートなどが課される機会が多く、続いて、文献や資料を調べる機会、学生同士での協議、が多かったとの回答を得た。一方で、外国語での議論や発表をする機会が少ないということも明らかになった。もともと、英語のみでの授業もシラバス上確認できないため結果に納得できる。対応策としては弱いですが、英語系共通科目で、よくある表現を使った英語でのコミュニケーション能力を高める機会の提供を少しずつ増やしている段階である。

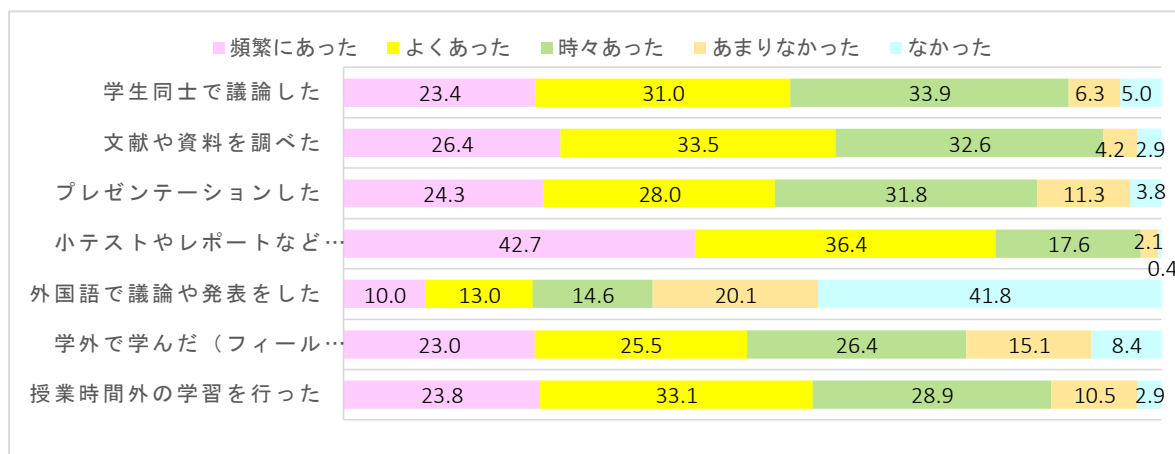


図 6. 在学中の講義機会について

6. 身についた力

本学では、学位授与方針（ディプロマポリシー）として、「専門分野の知識の習得」、「問題解決能力および情報収集・活用力」、「幅広い教養からくる心の豊かさ」などを身に着けた人材を地域社会に送り出すことを挙げている。卒業時に自身が身についたと思えるかの 13 項目について、回答してもらった。集計結果をみると、特に「専門分野の知識の習得」が顕著であり、「幅広い教養」、「他者とのコミュニケーション力」、「情報収集・活用力」、「課題解決力」が身についたと感じていることがわかる。卒業した学生は総じて、本学が教育課程において養成しようとする力を一定程度身につけることができた、と感じているようである。一方で、「外国語の運用能力」は低い状態であり、グローバル化した現代において対応していく必要がある内容となった。「専門分野の知識の習得」や「他者とのコミュニケーション力」において、身についたと回答する学生が多く、本学の教育課程を通して要請される力の特徴の一端がうかがえる。

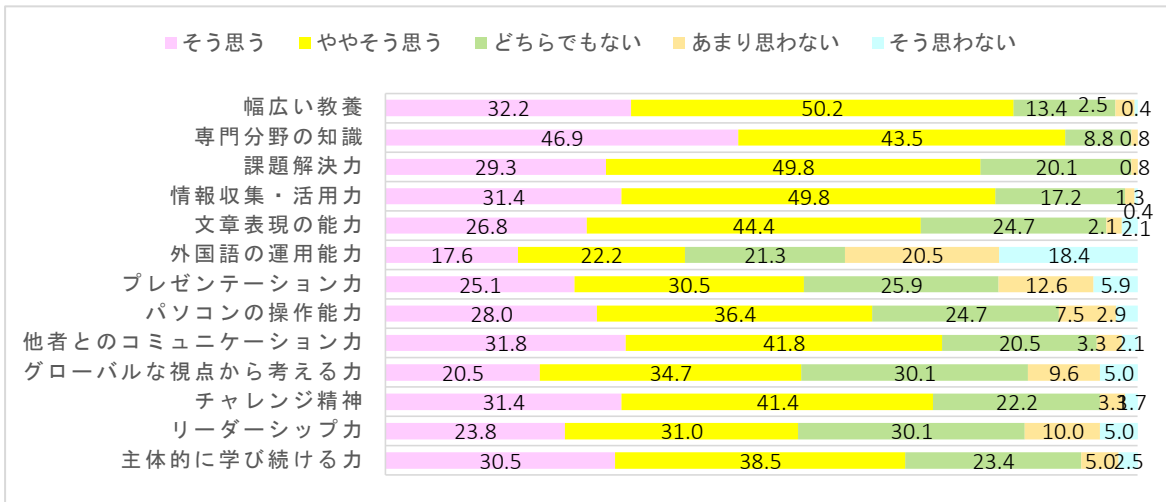


図7. 身についた力

7. 進路決定に役立ったもの

卒業後の進路決定について、役立ったものをたずねた。アドバイザーによる支援が最も多かった。アドバイザーは、今までのサポート経験も豊富なため、進路に迷った際に気軽に相談できることが要因と思われる。次いで就職等を念頭に置き入学する学校選びをしているため、「学修した内容」、「学修した分野」について役立ったと回答する学生が多かったキャリアガイダンス等も約3割の学生が役立ったと回答している。短大1年時より集中的に行われており、就職ガイダンス、マナー講座、社会人入門講座、キャリアアップセミナー、公務員試験等対策講座種類も豊富に取り揃えて実施している。

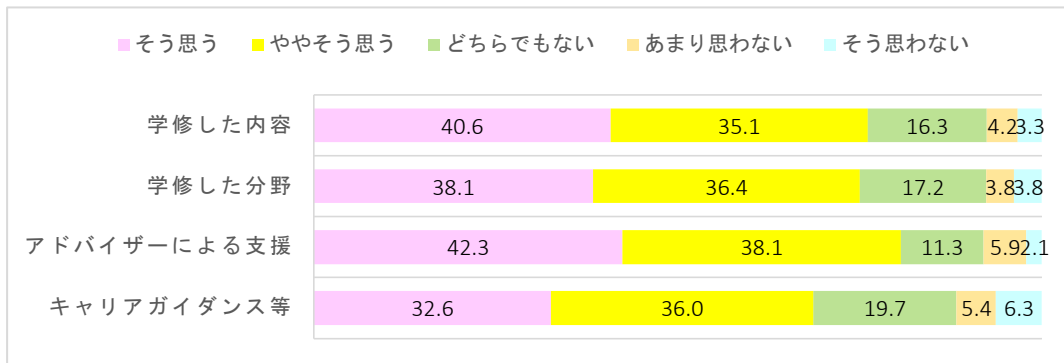


図8. 進路決定時に役立ったもの

8. 進路満足度

卒業後の進路について、希望に沿ったものであるかをたずねた。大半の学生が「そう思う」、「ややそう思う」と回答しており、概ね希望に沿った進路に進むことができているようである。一方で、卒業後の進路が希望に沿わない学生も一定数は存在している点には注意する必要がある。

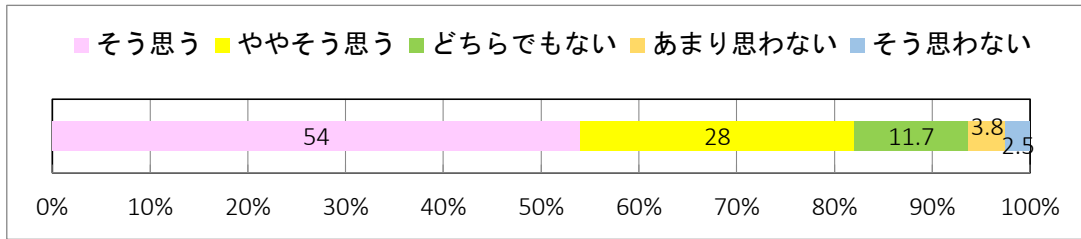


図 9. 希望通りの進路が実現できたか

9. 本学は、第一希望だったか

調査では、半数の学生が第一希望であり、他方ではそうでなかったと回答が得られた。最終的な卒業後の進路選択（前設問の希望通りの進路が実現できたか）の結果を考慮すると、第一志望でなくとも希望の進路を実現している学生が一定割合いることがわかる。第一希望の学生教育も重要な目的となるが、地方短大の使命として地域に資する学生教育こそが地域貢献ともなりえるため、希望者が希望通りの未来を描けるよう教育機関としての機能向上を成し遂げていく必要がある。

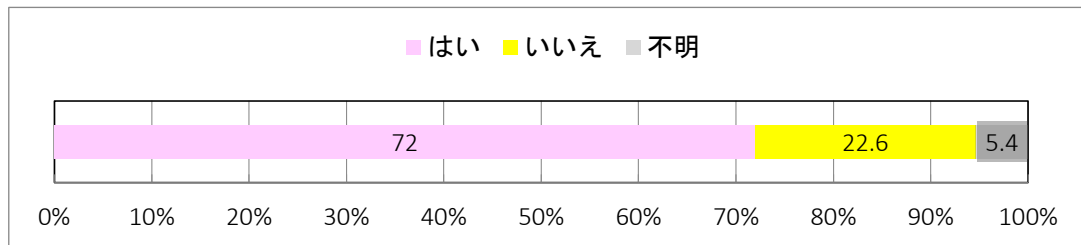


図 10. 本学が第一希望かどうか

* 「不明」は、指定された箇所に回答しなかったことに因る

10. まとめ

本調査の結果から、卒業生は学修の成果として、教育課程において養成されるべき力が身についたという手応えを、ある程度は得ていることがうかがえる。また、進路についても概ね希望に沿ったものとなっているようである。短大での学修の満足度も概ね良好であり、希望通りの進路選択もできているとわかった。本学の教育内容は、一定数の卒業生を満足させることができているといえるだろう。ただし、この調査は卒業が確定した段階で実施したものであるため、回答分布が全体としてポジティブな方向にシフトしている可能性がある。他のアンケート調査やエンロールマネージメントを方法についても検討が必要だろう。

【注記】

調査で「不明」と回答されたものは、理由を付記したもの以外は、重複回答や未回答に因るのでデータ選択から外した。